

令和6年度(2024年度) 第1回新たな事業の検討部会 会議概要

- 1 日時 令和6年8月26日(月) 午後2時30分～4時30分
- 2 場所 函館市地域交流まちづくりセンター 3階 会議室
- 3 出席者 委員(8人)  
佐々木香委員, 鏡典子委員, 小林裕司委員, 須賀昌昭委員, 秋山範文委員,  
阿部泰人委員, 池田誠委員, 宮川真人委員  
事務局(4人)  
事務局長 百成慶恭(環境部環境政策課長)  
事務局員 館澤裕次(同課主査), 福田誠(同課主査),  
高島一輝(同課主事)
- 4 傍聴者 なし(随行者2人(北海道ガス株式会社函館支店および  
渡島総合振興局保健環境部環境生活課))
- 5 発言要旨
  - (1) 開会  
(事務局)
    - ・ 事務局長あいさつ
    - ・ 名簿順に出席委員の紹介
    - ・ 事務局員の紹介
    - ・ 資料の確認
    - ・ 部会長に池田誠委員を選出
  - (2) 議事
    - 挨拶  
(池田部会長)
      - ・ それでは議事をはじめます。  
今回の検討部会の進め方ですが, 事前にいただいた事業提案が全部で11あり,  
これらの中から, 皆様の議論により, ある程度絞りながら内容も詰めていって, 協議会の提案としてまとめていきたいと思えます。
      - ・ 議論にあたりましては, 単なる質問だけでなく, それぞれの提案について, 「どのような地球温暖化対策の効果があるのか」や, 「事業として実現可能か」など, 協議会の意見として見たときにどうかという観点での議論をお願いいたします。
      - ・ なお, 本日の終了予定時刻は, 午後4時半を予定しておりますので, 皆様の忌憚のないご意見により, 有意義な議論としていただければと思っております。もし時間が不足する場合には, 2回目の部会を開催したいと思います。
      - ・ では早速ですが, 議題(2)「新たな事業の検討」に入りますが, 事前に資料に目を通していただいていると思っておりますので, 提案者からは, 補足などあれば説明していただいた上で, 議論していきたいと思えます。
      - ・ まず提案1から4は, 提案者が北ガス函館支店さんなので, 一括して補足などありましたら説明いただきたいと思えます。須賀委員, よろしく願いいたします。  
(須賀委員)
        - ・ (提案1～4について, 補足説明。)
    - (池田部会長)
      - ・ 部会の進め方について事務局に確認ですが, 事業提案を1つずつに対して, 「これは出す・出さない」を決めていくのか, もしくは事業提案1つずつに意見を付与するところまでで良いのか, 確認したい。
    - (事務局)
      - ・ 提出いただいた事業提案は全部で11あり, その中で事務局案について精査し,

最終的に9つの事業提案について議論いただくことになるが、ある程度事業の内容について議論していただき、その中で部会として提出する事業提案をある程度しぼっていただき、協議会に諮った上で、提案事業を決めていくという手順になります。

(池田部会長)

- ・ まずは事業提案の説明を全て聞き、意見を出したうえで最後に提出する事業を決めるのか、それとも事業の説明ごとに提出の可否を決めていくのか、そこを確認したい。

(事務局)

- ・ 1件ずつの査定ではなく、最後に決めるほうが良い。

(小林委員)

- ・ 市民にも意見を聞くほうがよいのではないか。

(池田部会長)

- ・ まずはこの部会の中で話し合うということで良いか。

(小林委員)

- ・ 単なる意見として言っただけなので、問題ない。

(池田部会長)

- ・ まずは提案1と2について、何か意見等あるか。

(阿部委員)

- ・ 提案1と2以外に関連する質問になるが、藻場の保全について、我々にできることとは、どのようなことがあるか。

(須賀委員)

- ・ 市の農林水産部のほうで、ウニの駆除等に取り組んでいると思う。

(佐々木委員)

- ・ 知り合いから聞いた話だが、今昆布が危機に瀕していて、奥尻島の海は海中の様子がキレイに見える状態になっているが、漁業関係者からするとこれは危険な状態で、藻場の管理を今から取り組んでも遅いくらいと考えたほうが良いと聞いたことがある。

(池田部会長)

- ・ 事業を1つずつ見ていくにあたって、市の環境部だけでは予算要求できないもの、例えば経済部や農林水産部と連携が必要になるのもなど、現段階でそのような問題がありそうな事業があれば、事務局からの意見を聞きたい。

(事務局)

- ・ ご提案をいただいた事業に関しては、予算要求の際に市としての方向性を整理していきながら議論していくことになる。

別件だが、協議会事業として補助金制度を設定できるのかは、今後確認する。

(池田部会長)

- ・ 次に事業提案5についてお願いしたい。

(小林委員)

- ・ (提案5について、補足説明。)

(池田部会長)

- ・ 提案内容はフェスについて書かれているが、まずはシンポジウムを開催するための経費を要求していくということで良いか

(小林委員)

- ・ 金額については流動的な部分があると思うが、そのとおりである。

(池田部会長)

- ・ 事業費300万円としているが、これは実際にはもう少し減るかもしれないというイメージか。

(小林委員)

- ・ ここまでかからないとは思いますが、シンポジウムの開催と、フェスの開催に関する調査経費を計上しているイメージである。

(阿部委員)

- ・ 函館市民の脱炭素に対する意識向上と、再生可能エネルギーの普及啓発を目的としてフェスを開催すると思うのだが、現状函館市民の脱炭素に対する意識は低いという認識か。また、市民の意識がどのくらい向上することを目標にしているなどあれば教えてほしい。

(小林委員)

- ・ 商品に関しても同じだが、10～15%以上の市民が、心から関心を持つ状態にしたいと考えている。また、フェスの開催に市内のほぼ全ての団体や事業者を巻き込むことが重要と考えている。

(宮川委員)

- ・ 開催にあたり、普及啓発を行い意識醸成をしていくのが目的か。

(小林委員)

- ・ 普及啓発事業の一環であると考えている。

(宮川委員)

- ・ 使うエネルギーは再生可能エネルギーか。

(小林委員)

- ・ 少なくともステージ上は再生可能エネルギーで賄えればと考えている。

(宮川委員)

- ・ 出演者や会場の方に働きかけるイメージか。

(小林委員)

- ・ そのとおりである。出演者は環境関連の活動に関心のある人をお願いしようと考えている。

(佐々木委員)

- ・ SUGIZOさんは実際に自身のコンサートをやる際に、水素エネルギーの車を持ち込んで、その車のエネルギーを使った電気でグループの演奏をしている。出演者を決める際に、候補として入れてほしい。

(池田部会長)

- ・ 資料で中津川のイベントの写真があるが、毎年やっているものか。

(小林委員)

- ・ 毎年やっている。

(池田部会長)

- ・ ちなみに、ap bank fes というものがあり、かなり大がかりなものだが、これは環境をテーマとしたイベントになっている。

(小林委員)

- ・ そういった大きなイベントに広げていければ、経済効果も大きいことから良いと思う。

(池田部会長)

- ・ 次の提案の6から9について、事務局から説明願いたい。

(事務局)

- ・ (提案6から9について、補足説明)

(池田部会長)

- ・ 提案7の説明にあった「ハコビット」とは何か。

(事務局)

- ・ 市の保健福祉部で行っている健康に関するアプリである。

(池田部会長)

- ・ 北ガスもこのアプリについては詳しいのではないか。

(須賀委員)

- ・ 「健康」というキーワードを市民に広めるために、実際にあるイベントと連携しながら、2、3年やっている。加入数は1万6千件くらいで、多くの市民の健康に関わる意識の向上に繋がっていると考えている。

(池田部会長)

- ・ セミナーなどに行くと、ポイントが付く仕組みなのか。

(須賀委員)

- ・ そのとおりである。例えばオーシャンスタジアムで、北ガスと函館大学が野球の試合をするとしたら、会場に来てもらうことで、ポイントがたまるという仕組みになっている。歩くということは健康にも良いが、環境にも良いことなので、こういってこととうまく連携できれば良いと思う。

(小林委員)

- ・ そのポイントはどのように使えるものなのか。

(須賀委員)

- ・ ポイントを使って、抽選でお米券などがもらえる仕組みになっている。

(鏡委員)

- ・ 提案7のエコポイントの関係で、これはハコビットに追加するというかたちなのか。

(事務局)

- ・ 保健福祉部に確認したところ、ハコビットは健康を目的としたアプリなので、そこに環境目的のものを取り入れるのは難しいということだったが、単発のイベントであれば取り入れることは可能ということであった。よって、事業費としてはアプリを新規に開発するという事で算出している。

(小林委員)

- ・ ハコビットのようなアプリを作るということか。

(事務局)

- ・ そのとおりである。

(秋山委員)

- ・ 提案8について、例えばEVのレンタカーでは、弊社の札幌の本店にも特斯拉や日産のEVを置いており、充電設備や車のスペースの確保など、規模の大きな話になると思うので、もしこの事業をやっていくということであれば、弊社も協力していきたいと考えている。

(池田部会長)

- ・ ここで提案1から戻り、提案事業の提出について判断をしていきたいと思う。ひとつ事務局に確認だが、すべての事業をこのまま提出してよいものか、それとも事業の気になる部分を整理したうえでの提出になるのか、ここを確認したい。

(事務局)

- ・ 提出する事業の数について制限はないが、市の予算要求の段階で、事業の内容について財政当局からいくつか質問を受けるため、事務局で不明な点があれば、お聞きすることがあると思う。

(池田部会長)

- ・ 事業の順番通りに進めていくが、まずは提案1と2はセットでよいか。

(須賀委員)

- ・ 1と2はセットで考えてよい。

(池田部会長)

- ・ それでは、まず提案1と2について決めていきたい。

(佐々木委員)

- ・ カプセルの中に入るトイが重要かと思うが、どのようなものを想定しているのか。

(須賀委員)

- ・ まだそこまで考えていなかったが、例えば市のPRに関連するものとして、縄文関連のマスコットキャラクターや、小さな昆布醤油などが良いかと思う。

(佐々木委員)

- ・ カプセルトイと言ってもたくさん種類があるため、その中でも魅力的なトイを選べればと期待している。

(小林委員)

- ・ カプセルトイは自分が欲しくて見ることもあるが、リアルな昆虫のトイなど、全部そろえてみたくなる。縄文のキャラクターなどにしても、なかなか売れないのではないかと正直思う。また、事業費をもっと上げて、制作費なども盛り込んでみても良いと思った。

(池田部会長)

- ・ もう一度進め方について事務局に確認だが、カプセルトイが良いのではという意見が出たときに、もう一度事業内容を見直すのか、また事業費を再検討する余地はあるのか、そこを確認したい。

(事務局)

- ・ 予算額などを含めて、基本的には提出いただいた事業については、そのまま部内を通して財政当局へ予算要求していくことになる。

(池田部会長)

- ・ 提案事業の内容について修正・検討などある場合には、もう一度部会を開催することになるのか。

(事務局)

- ・ 令和7年度の予算要求に間に合う形であれば、もう一度部会を開いて整理し、予算要求していくが、整理に時間を要する事業であれば、来年度以降の予算要求までに整理をすることも考えられる。

(池田部会長)

- ・ では、そのような判断を提案事業ごとにしていく。  
提案事業の1と2はセットでという話だったが、これは2つとも出したほうが良いか。

(須賀委員)

- ・ 提案2のみで良い。

(池田部会長)

- ・ では、提案1を取り下げ、提案2を出すことにしたい。これについて、何か意見等あるか。

(宮川委員)

- ・ Jブルークレジットについてだが、JBEが来年公募予定ということだが、ブルークレジットは今のところJBEしか選択肢がないという状況か。

(須賀委員)

- ・ クレジットを創出する主体は南茅部だが、例えば漁協で買うという方法はあると思われる。

(宮川委員)

- ・ ブルークレジットの単価が8万円と高いのが気になった。Jクレジットであれば1万から2万円程度だったと思う。

(池田部会長)

- ・ 提案2を提出するということでよろしいか。

※他に意見等なし。

- ・ では、提出する方向で話を進めていく。

次に、提出事業の3と4だが、これは補助金事業だろうか。

(須賀委員)

- ・ 先ほど事務局でも話があったが、補助金は協議会事業としては、あまり見られないものかと思われる。

提案3についてはカーボンニュートラルガスということで、非常にガス会社寄りだなと感じているし、提案4についても、例えばヒートポンプはどうかという観点もあるため、もう少し熟慮が必要かなとも思う。

フラットに考えた時に、一戸建てでは熱エネルギーの割合が高く、そこに使われている油を天然ガスに変えるとCO<sub>2</sub>を2割削減できるという点で提案4のほうが即効性がある。

(小林委員)

- ・ 先ほど事務局で補助金については後で確認するという話だったが、これはその確認をしてからの話ということか。

(事務局)

- ・ おそらく協議会に対して函館市から補助事業のための原資を出すことは難しいと思われるが、一方で、市のほうでエネルギー関連の補助は行っているため、協議会事業ではなくなるが、市の事業として行うことができるかもしれないので、参考にさせていただくかもしれない。

(池田部会長)

- ・ 協議会の提案として提出したが、市の事業として予算要求された場合でも、協議会としては提案した価値があると思う。そういった意味では、一旦提案3は取り下げ、提案4を提出する方向で良いか。

(須賀委員)

- ・ 了解した。

(池田部会長)

- ・ 次に、提案5だが、何か意見等あるか。  
事業費の300万円はどこからきているのか。

(小林委員)

- ・ ざっくりとした金額になっている。函館市は財政的にあまり余裕がないと思うので、圧縮した金額にしたいと考えている。例えばシンポジウムを開くにあたって、同友会で講話者を呼んでやったときに、自分たち会員が1,000円なり会費を払っている。それを会場費などに充てているが、それでも100万円はかかると思う。

まずは視察の結果も踏まえながら、シンポジウムを行い、次につなげていければと考えている。

(阿部委員)

- ・ 大学で行っている学会では参加費が1万円で500人ほど集まっているため、シンポジウムを開催するとなれば500万円ほどかかるのかもしれない。

(小林委員)

- ・ シンポジウムでは、来ていただいた方からはなるべく参加費は取りたくないと考えている。また、多くの方を集客するには、会場は市民会館などが良いのかなと思っている。

(池田部会長)

- ・ 昔国際ホテルで、南北海道エネルギープロジェクトが主催でセヴァン・スズキさんと呼んだことがあるが、400人ほど集まり、すごく関心があったと記憶している。招聘にいくらかかったかわからないが、環境のことを考えていて、インパクト

のある人物を呼ぶとなると、どのくらい経費がかかるかということもある。

(小林委員)

- ・ もしかしたらそこが一番お金がかかるかもしれない。

(池田部会長)

- ・ もし提案5を提出するとした場合、事業費は300万円で良いか。

(小林委員)

- ・ 講師謝礼金など見えない部分があるため、ある程度は積算していきたいが、事業費の精査に時間がかかるため、今日1日では決めにくい。

(池田部会長)

- ・ 来年度予算は9月の議会で決まるものか。

(事務局)

- ・ 議会に出すのは来年の2月になる。予算編成が10月から始まる。

(池田部会長)

- ・ 予算編成が10月から始まるということは、その前にある事業を提出するリミットはいつか。

(事務局)

- ・ 9月中までに提出いただきたい。ただ、思った以上にいろいろな事業を提案いただいたので、全ての提案事業をそのタイミングまでに整理できるかというところもあると思う。一方で、とりあえずということで結構な数の提案を提出していただき、仮に予算がついた場合に、協議会事業として全ての事業を実施していかなければならなくなる。そのような部分を踏まえながら、提出事業を精査していただければと思う。

(池田部会長)

- ・ 提案5については、今年度提出するのではなく、来年度以降の提出になるということも考えられるか。

(小林委員)

- ・ かまわないが、シンポジウムが足がかりになるため、これは早く実施したほうが良いと考えている。

(池田部会長)

- ・ 提案5について、もう少しブレイクダウンしたものを出してもらい、わかりやすくなったものを部会でもう一度協議し、提出するという時間はあるか。

(事務局)

- ・ 今回の1回で終了するとは想定していない。再度集まって部会を開催することは想定していた。

(池田部会長)

- ・ 提案5については、もう少し揉んだものを次回提出いただく形でも良いか。

(小林委員)

- ・ 了解した。

(池田部会長)

- ・ 次に、提案8については、内容的にも今後継続的に審議していくこととして、提案6の協議会の広報誌から考えていきたい。

これは、両面のチラシのようなものか。

(事務局)

- ・ A4サイズの内紙両面を考えている。

(佐々木委員)

- ・ 紙削減のため、市の公式LINEなどSNSを活用するほうが良いと思う。

(池田部会長)

・ デザインはどのようにするのか

(事務局)

・ 事務局で考える予定であった。

(佐々木委員)

・ デザインはプロの方に依頼したほうが良いと思う。

(池田部会長)

・ 他に意見等あるか。

今のような意見を踏まえると、紙で作成せずSNSを活用し、デザインはプロにお願いしたほうが良いというようになっており、いただいた提案と内容が異なるため、この提案は提出しない方向になるが、他に意見等あるか。

(小林委員)

・ 今はペーパーレスの時代なので、SNSを活用することに賛成である。

また、環境部ニュースと同じ配布先とあるが、環境部ニュースとはどのようなもので、どのような場所に配布しているものなのか。

(事務局)

・ 環境部ニュースとは、年3回環境部で出している広報誌で、配布先は町会となっている。町会の中でも、回覧していただける町会と、そうでない町会がある。あとは連携協定を結んでいるローソンやマックスバリュ、公共施設のほうに配布をしている。ホームページにもアップしているため、函館市環境部ニュースで検索いただければと思う。

(池田部会長)

・ 次に提案7だが、これは来年度事業として考えているのか、それとも継続して検討していくものなのか。

(事務局)

・ 事業の進め方としては、仮にハコビットではなくて、別のアプリとして作成する場合でも、積算をして来年度予算の要求に乗せることは可能と考えている。

(池田部会長)

・ 協議会の事業となると、かなり事務量が多くなるような気がするが、例えば健幸大学はどこが事務局をやっているのか。

(須賀委員)

・ 函館市の市民部と保健福祉部がやっていて、事務局は保健福祉部となっている。

(池田部会長)

・ 提案7の事業を実施する場合、協議会はどのようなことをすることになるか。

(小林委員)

・ 地域通貨を活用するという考えは、実現できれば良いと思うが、アプリが実際の生活にマッチして利用できるものでないと、なかなか参加者は増えないように思う。

(池田部会長)

・ 新しくアプリを作るのか、また既存のハコビットのようなアプリに乗っかっていくのか、いろいろ方法はあると思うが、スケジュール的に来年度の予算要求に間に合うのであれば、この提案は提出の方向で考えたいが、どうか。

※他に意見等なし

(池田部会長)

・ では、提出で考える。

次に提案9だが、何か意見等あるか。

(佐々木委員)

・ ポスターということであれば、紙を利用したほうが効果があると思う。ただ、登録証などはデータでのやりとりでも良いと思う。

(事務局)

- ・ それも一つの方法だと思う。

(小林委員)

- ・ この提案についても、なるべく紙ベースではなくて、電子データで実施できれば良いと思う。

(池田部会長)

- ・ これは自己申告で登録されるものか。

(事務局)

- ・ 自己申告で取組内容を教えていただき、登録するものである。その後、その結果を報告いただこうと考えている。

(池田部会長)

- ・ 異議がなければ、提出で考えたいがどうか。

※他に意見等なし

(池田部会長)

- ・ ここで提出する意見をまとめたい。提出する意見は、2番、4番、5番、7番、9番で、4番については補助金の確認、5番はもう少し精査、7番は独自のアプリを作成するのか、また既存のアプリに乗っかるのかの判断が必要だが、基本的にエコポイントには賛成ということで提出、9番は郵送するのかデータで対応するのかという判断はあるが、基本的には実施の方向ということで提出する。

(事務局)

- ・ 本日いただいた意見をもとに、提出する事業をまとめたいと考えている。繰り返しになるが、仮に提案いただいた事業が全て予算化された場合には、協議会事業として進めていくことになるので、提案内容や本数について整理していただければと思う。また、事業を整理していく中で、優先順位をつけていくことが必要になるので、そのあたりもご意見いただければと思う。事務局提案については、いただいた意見をもとに、速やかに修正案を作成したいと思う。今回持ち帰って整理していただく小林委員の提案については、より詳細な情報をいただいてから、事務局の修正案とともに再提案させていただければと考えている。

次回については、再提案する事業や優先順位について話し合うために、事務局としては第2回の部会を開催したいと考えているが、書面開催とするか、再度対面で実施するかについて、ご意見いただきたい。

(池田部会長)

- ・ 協議会の皆さんどうか。もう一度集まって話し合う形でもよいか。

※他に意見等なし。

(池田部会長)

- ・ 小林委員の修正案はいつまでに事務局へ提出すればよいか。

(事務局)

- ・ 想定しているスケジュールは、9月の9～11日あたりにできればと考えていた。そこに間に合うように修正案を提出いただければと思う。

(小林委員)

- ・ 一週間以内に修正案を提出することは可能だが、自分はその期間出張で不在となっている。他の皆さんの日程はどうか。

(池田部会長)

- ・ 12日はどうか。

(小林委員)

- ・ 大丈夫である。

(佐々木委員)

- ・ 事務局的に12日はどうか。

(事務局)

- ・ 会場さえ押さえられれば大丈夫である。

(池田部会長)

- ・ 他の委員は12日はどうか。

※各委員から大丈夫との声

(池田部会長)

- ・ それでは12日に開催する方向でお願いする。

(事務局)

- ・ 了解した。

(3) 閉会